



ザ・メリオン「The Merrion」のエントランスホール。アイルランドの首都ダブリンで伝統と格式を誇る迎賓館のホテルだ。館内は決して華やかな装飾に走らず、洗練された上品な空間が心地よい



ホテル中央部に位置する「Georgian Drawing Rooms」でのアフタヌーンティー風景。このアフタヌーンティーは地元のセレブリティに絶大な人気で、数日前から完全に予約で埋まっている



ザ・メリオン「The Merrion」の正面エントランス。ホテルの表札とLHWのプレートはあるが、凜としたドアマンが立っていないと気が付かないくらいだ



建物は緻密に修復された英国ジョージ王朝時代のタウンハウス4棟から成り、アイルランドの建築史を垣間見ることができる



笑顔のスタッフが応対するレセプションデスク



「Georgian Drawing Rooms」は2部屋から成り、眩いシャンデリアが美しい夕刻の風景

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。



筆者 **小原 康裕**
ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華やかな写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



華やかな装飾が印象的なジョージアン・ドローイングルーム「Georgian Drawing Rooms」



重厚な雰囲気のあるバー「Bar No. 23」のラウンジ部分



プライベート感覚の「Bar No. 23」のカウンター

The Merrion Hotel, Dublin

ザ・メリオン「The Merrion」は、アイルランドの首都ダブリンで伝統と格式を誇る迎賓館のホテルだ。ダブリン市街地の中心部に位置しているが、国立美術館と国立歴史博物館に隣接する閑静な場所にある。建物は緻密に修復された英国ジョージ王朝時代のタウンハウス4棟から成り、アイルランドの建築史を垣間見ることができる。このホ



地下の洞窟をイメージした石造りのバー「The Cellar Bar」。地元アイリッシュパブが基本コンセプトだが、ワインセラーも充実している



ガーデンウィングにある「Junior Suite」のシッティングエリア。カーテンやカーペットなどアイルランドのファブリックとアンティークを使用したデザインが施され、洗練された上品な空間が心地よい

テルの良さは、派手な装飾のトーンを抑えた、実に控えめな外観のホテルと言える。大きな正面玄関を持たず、ホテルの表札とLHWのプレートはあるが、凛としたドアマンが立っていなければ気付かないくらいだ。

ダブリンはかつて大英帝国第2の都市と呼称されるほどに栄えたが、1949年にアイルランドが英連邦より独立し、共和制国家「Ireland」の首都となった。現在は欧州有数の金融センターを担う重要な都市の一つであり、英国のEU離脱後は、ロンドンに替わる有力な候補地にもなっている。また、アイルランドは多くの世界的に著名な作家を輩出する文芸大国でもある。バーナード・ショウ、W.B. イエーツなどのノーベル賞作家のほか、オスカー・ワイルド、J. スウィフトなど、数えきれないほどの文豪たちゆかりの地がダブリンに集中している。

ザ・メリオンは19のスイートを含めて全142室を擁し、2009年に全面改修している。気品ある館内は19世紀と20世紀のアイルランド美術品を集めたプライベートコレクションを有している。今回はガーデンウィングにある「Junior Suite」を紹介したい。暖炉と余裕のバスルームが特徴のエレガントな部屋だ。ミシュラン2つ星のメインダイニング「Restaurant Patrick Guilbaud」は、残念ながら訪問時は大規模改修中であつた(現在は稼働中)。「Georgian Drawing Rooms」でのアフタヌーンティーはお勧めで、「Art Tea at The Merrion」と銘打った「アートティー」は、名画をスイーツに表現したもので人気が高い。その他、重厚な雰囲気のあるバー「Bar No. 23」、石造りのバー「The Cellar Bar」など多彩だ。スパ施設「Tethra Spa」はESPAやDarphinの製品を使用して地元のマダムに好評である。



バー「Bar No. 23」のラウンジ席でスタッフからアフタヌーンティーの説明を受ける



「Art Tea at The Merrion」と銘打った「アートティー」は、3点の名画をそれぞれのスイーツに表現したもので人気が高い



重厚感あふれるキングベッド。脇には暖炉が設置され落ち着いた雰囲気である



淡い色調でまとめられたシッティングエリア



ガーデンウィングの中庭。夏はここにテーブルセッティングされたテラス席が用意される



スパ施設「Tethra Spa」にあるスイミングプール。トリートメントはESPAやDarphinの製品を使用して地元のマダムに好評価だ



アメニティの置き方にも気品が感じられる



バスルームは白亜の大理石で統一。広い面積を確保した使い勝手のよい空間である

ザ・メリオンの館内は決して華やかな装飾に走らず、洗練された上品な空間が心地よい。各部屋には、アイルランドのファブリックとアンティークを使用したデザインが施され、18世紀のタウンハウスの建築とオリジナルの気品あるインテリアが反映されている。スタッフの高いホスピタリティと、ソフト・ハード両面に強い意識が感じられ、ダブリンのホテルで最高の水準にあると言えるであろう。